

各 位

平成30年7月15日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



「クリンソウの谷」に咲き立つメタカラコウ

メタカラコウ（キク科）

深山の湿地に生える多年草で、茎は直立して枝分かれしません。葉には長い柄があり、三角状心形です。茎の先に黄色い頭花を総状につけ、頭花は普通数枚の舌状花があり、中に筒状花が集まります。名は、雌タカラコウで、雄タカラコウよりも優しいつくりであることによります。

本格的な夏の到来を間近にして、野草園の夏の花たちはきれいな姿を見せてくれています。園内の「クリンソウの谷」の林の中には黄色い花のメタカラコウの花序が咲き立ち、炎が立ち並んでいるかのように見えます。また、7月下旬頃からは様々なユリやカンゾウの花が見頃を迎えます。黄橙色のコオニユリやヤブカンゾウの花、そして園内の「ロックガーデン」の東斜面には白色のヤマユリの大きな花が咲き誇ります。野草園は、緑の林や花畑、沼や湿地、芝生の丘や東屋等があり、散策するには絶好の場です。市街地と比較すると気温が3度～5度くらい低く、樹木の下は日陰なので涼しいです。心と体のリフレッシュに、ぜひいらして下さい。

7月中旬から8月上旬までのイベント予定

◆【ガイドウォーキング】

○日 時 7/15（日）16（月）22（日）29（日）、8/5（日）11（土）12（日）
1回目 10:00～11:00 2回目 11:00～12:00 3回目 13:00～14:00 4回目 14:00～15:00

○内 容 ボランティアガイドと一緒に園内を散策します。申し込み不要、その場で参加できます。もちろん無料です。見頃の花の場所に案内し、その花の説明もします。

◆【絶滅危惧植物パネル展】・・・7/14(土)～8/19(日) 9:00～18:00

○内容・・・園内に咲いている絶滅危惧植物の花の写真などを展示。

○場所・・・野草園自然学習センター内

○費用 無料(入園料別)

◆【お山マルシェ】

○日時 7/21(土) 10:00～15:00

○内容 アジアンフードやドーナツを販売するキッチンカーなどの出店。

○出店 アジアン屋台ニ科尔食堂 ドーナツ屋maaru ride4style

ヒマラヤカフェ 石屋 石鹸作りワークショップ

○場所 中央広場

◆【ラベンダースティック教室】

○日時 7/21(土)、28(土) 10:00～12:00

○講師 ハーブライフ&ガーデン 佐竹文子氏

○内容 ハーブ園で摘み取ったラベンダーを使ってスティックの作り方を学び、楽しめます。

○場所 自然学習センター ピロティ

○参加費 スティック1本 200円(入園料別)

○対象 各日、先着30名 ○申込み 電話で野草園まで: TEL 023-634-4120

◆【木工工作教室】

○日時 7/29(日)、8/5(日)、12(日) 10:00～12:00

○講師 植物案内ボランティア、野草園職員

○内容 自由に工作。材料は園内で集めた木の枝、工具や接着剤は野草園で準備します。

○場所 自然学習センター ピロティ周辺

○参加費 無料(入園料別)

○対象 各日、小学生親子先着20組 ○申込み 電話で野草園まで: TEL 023-634-4120

◆【工作コーナー】

○日時 7/28(土)～8/19(日) 10:00～16:00

○場所 自然学習センター ピロティ

○内容 夏休みの課題の1つとしての木工工作づくりを親子で体験できるコーナーを設置します。材料は園内で集めた木の枝、工具や接着剤は野草園で準備します。申込みは不要。

○参加費 無料(入園料別)

◆【野草園から登る瀧山登山】

○問 テレマーク&マウンテンガイド IDEHA 石沢氏 TEL 090-7067-0667

○日時 8/11(土) 8:00～14:00

○場所 野草園から瀧山まで(8:00 野草園集合)

○内容 地元山岳ガイドとともに自然や歴史を観察しながらの瀧山登山

○主催 テレマーク&マウンテンガイド IDEHA(共催 山形市野草園)

○講師 東北山岳ガイド協会会員 石沢孝浩氏

○対象 小学校高学年以上 先着10人

○費用 3,300円(ガイド料、保険料、入園料込) *高校生以下は1,000円

○持ち物 長袖、長ズボン、登山靴、昼食、飲み物など

○申込み IDEHA ホームページ <http://www.ideha.jp>

○締切り 開催日の3日前

◆【草木染め教室】

- 日 時 8 / 1 1 (土) 13:00~15:00
- 講 師 野草園職員
- 内 容 園内の植物などを使って、ハンカチの染色実験をします。
- 場 所 自然学習センター ピロティ
- 参加費 材料費 1組 500円(入園料別) ○持ち物 汚れてもいい服装
- 対 象 小学生親子先着10組 ○申込み 電話で野草園まで: TEL 023-634-4120

◆【星空を見る会】

- 日 時 8 / 1 2 (日) 19:00~20:30
- 講 師 「NPO法人 小さな天文学者の会」加藤 到 氏
- 内 容 夏の夜空に見られる星座の見つけ方を説明してもらったり、天体望遠鏡で惑星を見たり、また映像を視聴し、宇宙についての理解を深めて頂きます。
- 場 所 自然学習センター前の中央広場
- 対 象 先着25名 ○参加費は無料(入園料別)
- 持ち物 虫よけ
- 申込み 電話で野草園まで: TEL 023-634-4120 *雨天の場合は中止になります。

●●●7月後半に見られる主な花たち●●●



ヤナギラン(アカバナ科)

山地の日当たりのよいところに生える、高さ50~150cmの多年草です。茎は直立して分岐せず、葉は互生し披針形で葉柄がなく裏面はやや白色を帯びています。茎の先に多数の紅紫色の花を開き、だんだん下から上へ咲き上がります。名は花が美しい蘭に、葉が柳に似ていることによります。



キクイモモドキ(キク科)

日当たりの良い所に生育する多年草です。草丈1m程で、黄色の舌状花と筒状花からつくられ、まるで小さなヒマワリのような花です。繁殖力が強く、ヒマワリ属のキクイモ(菊芋)によく似ているのでこの名がつけられたようですが、根茎の先は芋になりません。



オカトラノオ(サクラソウ科)

山地や丘陵などの日当たりのよい草地に生える多年草です。茎は直立し、ほとんど分岐せず基部は紅色をおびます。葉は互生し短い柄があり長楕円状披針形です。茎の頂きに一方に傾いた総状花序を作り、多数の小さな白い花を密につけます。名は「岡虎の尾」の意味で、岡によく見られ花穂がトラの尾に似ることによるそうです。



クサレダマ (サクラソウ科)

野や山の湿地に生える多年草で、茎は直立しほとんど分枝しません。葉は対生または3～4枚輪生します。上部で枝を分けて多数の黄色い花をつけます。名は腐れ玉ではなく、地中海原産のマメ科の低木レダマに似た草の意味だそうです。クサのレダマと説明すると間違いません。



サボンソウ (ナデシコ科)

ヨーロッパ原産で、明治時代に入ってきた多年草です。葉は対生し、長楕円状披針形です。枝の先に淡紅色または白色の花を集めてつけます。葉を水に浸すと石鹼と同様の作用があり、かつては代用品として使われたそうです。しかし、有毒ですから口には入れてはいけません。名はサポニンを多く含んでいるのでつけられたそうです。



カライトソウ (バラ科)

山の草原に自生し、草丈は1m程、茎は上の方でよく枝分かれます。葉は楕円形で、縁に波形のギザギザが入ります。穂状の花は先端から根元に向かって咲き、花弁はなく、雄しべが紅紫色で長く、花の外に突出したような感じになります。カライトソウの名前は、この雄しべを唐糸(絹)に見立てたものです。



ミソハギ (ミソハギ科)

野原や山すその湿地に生える多年草です。茎は直立し高さ50～100cm、上部で多く分枝します。葉は対生し、披針形で長さ2～6cmです。花は葉腋に1～3個ずつ付き、萼は筒状で、先が6裂します。花弁は紅紫色で6個が普通です。仏事に用いる風習があり、切花にして仏壇や墓にそなえることから、「禊ぎ萩」の名前がついたようです。



クサキョウクトウ (ハナシノブ科)

北アメリカ原産の多年草で、葉は対生しますが、時には3枚輪生します。葉柄はごく短く、いくぶん茎を抱くようになります。茎頂に紅紫色の花を多数つけます。花は下部が細い筒となり、上部は花弁が5裂して平らに開き、回旋してひだ状に重なります。名前は花がキョウクトウに似て草であるからです。



ガクアジサイ(アジサイ科)

暖かい地方の山地などに生える背丈2 m程の落葉低木です。葉は長卵形で厚く、茎先に大形の花序を付けます。中心部は小さい青色の両性花が密集しています。周りは萼片が変化した4枚の白い装飾花で、それが額縁のように見えるのでこの名がついたようです。



千ダケサシ(ユキシタ科)

やや湿った山野に生える多年草です。葉は2~3回羽状複葉で、小葉は楕円形または倒卵形です。縁には不ぞろいの鋸歯があります。花茎の先に淡紅色や白色の小さな花を多数つけます。名は、チダケ(乳茸:傷をつけると白色の乳液を分泌する食用キノコ)を採ると、この草の茎に刺して持ち帰ったことによるそうです。



ネムノキ(マメ科)

山地や原野、川岸などに生える落葉高木です。葉は大形の偶数2回羽状複葉で、羽片は7~12対、小葉は18~29対あります。夜になると小葉が眠るように閉じます。枝先に10~20個の紅色の花を散形状につけます。花は花弁が合体し、上部だけが5片に分かれ、淡紅色のたくさんの長い雄しべが目立ちます。雌しべは白色の糸状で雄しべより少し長いようです。



カワラナデシコ(ナデシコ科)

各地の山野に自生する多年生草本です。葉は対生し、線形または披針形で、基部は茎を少し抱きます。花茎の先に咲く淡紅紫色の花は花弁の先が細かく裂けて優美です。秋の七草のひとつに数えられていますが、7月には咲き始めます。名の撫子は可憐な花の様子に基づき、河原に生えるからです。



ヒヨドリバナ(キク科)

山野に生える多年草で、草丈が1~2 mになり、葉は短柄で対生します。茎先に散房状に多数の白色の花を付けます。まれに薄い紅色を帯びる時もあります。花は筒状花だけの集まりで、雌しべの花柱が2つに分かれて長く伸びています。名前の由来はヒヨドリが鳴く頃に花が咲くからのようです。



キキョウ (キキョウ科)

日当たりのよい山地や野原などに生える多年草で、観賞用にも多く栽培され、八重咲きや白花などの園芸品種も多いようです。根は太く黄白色をしており薬用とされています。葉は長卵形で先は尖り、ふちには鋸歯があります。茎の上部に青紫色の鐘形5裂の花を開きます。秋の七草でいうアサガオはキキョウのことだといわれています。



リョウフ (リョウフ科)

山林の中に生える落葉の小高木で、樹皮は薄片となっってはがれ、残りは茶褐色でなめらかです。葉は枝先に集まって互生し広い倒披針形です。枝先に小さな白い花を密につけます。木肌がきれいなので、薄片をつけたまま床柱として使われるそうです。昔、若い葉を保存しておき、救援食物としても使われたそうです。



ヤマユリ(ユリ科)

本州中部から北の山地に生える日本特産の多年草です。茎の高さは1～1.5mで直立していますが、花径が20cmもある大形の花を茎の上に数個つけるので、その重みによって少し倒れるものもあります。6個の花被片は白く、真ん中に黄色い筋が入り赤褐色のたくさんの斑点があります。雄しべの葯は赤くて目立ちます。花には強い芳香もあります。



ヤフカンソウ (ススキノキ科)

野原などの日当たりの良い所に生える多年草です。葉は広線形、鮮緑色で先は下垂しています。若葉はおいしい山菜のひとつです。葉の間から花茎を出して上部に黄赤色の花を数個つけます。雄しべや雌しべは花卉のようになり、八重咲きになるので、果実はできません。根茎から横につるを出して繁殖します。



コオニユリ (ユリ科)

日当たりの良い湿り気のある山地に生える多年草です。葉は線状披針形で、葉のわきにオニユリのようにむかごはつきません。茎の先端に黄赤色の花をつけます。花の数はオニユリよりも少なく、形も少し小さいようです。花卉は6個あり、上部はそり返り内側には紫黒色の小点がまばらにあります。名はオニユリよりも小さいからです。